

2021
10
令和3年

令和3年10月1日発行 発行/寄居町 編集/総務課 〒369-1292

埼玉県大里郡寄居町大字寄居11801 TEL048-581-2121 FAX048-581-5100



第31号

昭和32年11月22日
発行

町広報誌を振り返る

広報よりい800号まで町広報誌のバックナンバーを紹介するとともに町の歴史を振り返ります。今回は昭和32年11月22日に発行された町広報誌の中から新正喜橋完成の記事を紹介します。



建設中の新正喜橋と奥に写る旧正喜橋

ピックアップニュース 待望の正喜橋完成

正喜橋の架替工事が、昭和30年10月の着工から2年の歳月を経て、完成したことが特集されています。「名勝玉淀に一異彩を放つ」とあり、玉淀河原周辺の新たな魅力の一つとして新正喜橋は注目されていたようです。

新正喜橋は、長さ149メートル、日本で初の特異函型桁橋（ボックスガーター）を採用、その規模は東洋一とあり、新正喜橋が

当時の先端技術を用いて建設されたことがうかがえます。

新正喜橋の紹介に加え、旧正喜橋のことにも触れています。「関東一といわれる旧正喜橋は故神谷茂助氏が大正三年県にその架設を出願し、同五年二月許可と同時に工事に着手し、大正九年三月完成したものでその間神谷氏が投げ出した資産は十八万二千元に上り、第一次世界大戦の影響で鉄材の値上りなどその辛酸は言語に絶するものがありました。」とあり、旧正喜橋

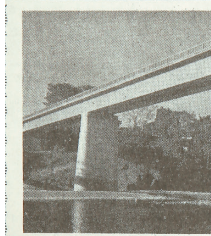
待望の正喜橋完成 近く盛大に開通式挙

長い間懸案となっていた正喜橋の架替工事は、昭和三十年十月着工以来二年の歳月と総工費七千万円を投じようやく完成、近く開通式を挙行することになり、名勝玉淀に一異彩を放つこととなりました。

総予算七千万円投す 県立玉淀公園に一異動

十月十七日、建設工事は武蔵建設、橋桁は横川橋梁が請負、近く待望の開通式が挙行されます。

町民体育大会
町地初勝優
この大会で
各選手が
活躍した



写真は完成した新橋を鉢形河畔からみたところ

寄居町の主なできごと(昭和32年)
11月 ○新正喜橋開通
【工費】 約7千万円
【工期】 昭和30年10月着工
～昭和32年11月完成



現在の正喜橋(玉淀遊歩道から撮影)

の建設にかかる神谷氏の偉業がたたえられています。

今後とも正喜橋は、名勝玉淀に一異彩を放ちながら、町の南北を結ぶ重要な道路施設の一つとして、町民の暮らしを支えていくことでしょう。